

研究課題	1人1台端末を活用した思考力・表現力の育成
副題	～世界に伝われ！私たちの思い～
キーワード	ICT活用、思考力・判断力・表現力、デジタルシンキングツール
学校/団体名	私立コロombo日本人学校
所在地	〒00800 NO.4 LAKE DRIVE, Sri Jayawardenapura Mawatha, Colombo8, SriLanka
ホームページ	http://srilanka.jscol.com/

1. 研究の背景

本校はスリランカの最大都市コロomboにある日本人学校（小学部・中学部併設校）である。小規模な学校であるため、個別に対応した指導を行っている。また、スリランカ唯一の日本人学校として、多くの機会が生徒が人前でスピーチやパフォーマンスを披露することが求められる。そのため、生徒たちは日常的に発表の経験を積んでいるが、内容が乏しく、伝えたい思いを十分に表現できずに終わってしまうことが多いのが現状である。

令和5年度は、「論理的思考力を高めることが表現力の向上につながるのではないか」という仮説を立て、ICT機器を活用した授業を実践した。ICT機器の使用は、児童生徒の思考を整理する手段として効果的であることが明らかになったが、思考を深める点においては改善の余地が残った。

そこで今年度は、1人1台の端末を活用し、思考を深めることに焦点を当てて、論理的思考力をさらに向上させることを目指し、表現力の育成に取り組むこととした。

2. 研究の目的

本研究は「1人1台端末を活用し、論理的思考力を高めることが表現力の育成につながるのではないか」という仮説のもと、1人1台端末を活用した教育活動を行い、児童生徒の思考を深め、表現力を育む手立てを明らかにすることを目的とした。また、在外教育施設である日本人学校として、グローバル人材の育成が求められることから、スリランカや日本の魅力を発信することに主眼を置き、副題を「～世界に伝われ！私たちの思い～」とした。

3. 研究の経過

本校では毎週水曜日の朝活動（7:45～8:00）の時間に Grow Up Time の時間を設定している。Grow Up Time とは「思考力・判断力・表現力の育成と向上」と「各行事に向けた個々の表現活動の練習」の場として、令和元年度から導入しているものである。今年度は ICT 操作における基礎基本の学習の時間とし、「タブレット端末の操作方法や使用アプリケーションの活用法を習得すること」、「プログラミングを体験し、論理的思考力の基礎基本を習得すること」をねらいとした。

また毎年2学期に開催している校内文化祭「JSC フェスティバル」では、保護者や学校関係者を招き、日頃の学習の成果を発表する場として設定している。

	Grow Up Time	総合的な学習の時間	各教科	
1 学期	児童生徒への発表に関する意識調査第 1 回 (Google Forms) を実施。(5 月)			
	<ul style="list-style-type: none"> ・ iPad の基本操作の習得 ・ Keynote の使い方 ・ ロイロノート・スクールの使い方 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現地校との交流会の計画、実施、ふり回り ・ 情報モラル講座 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校内研究授業 (第 1 回) (デジタルシンキングツールの活用) ・ 調べ学習、発表活動等 	
スライド発表：1 学期の振り返り (終業式)				
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・ パナソニックプレゼンテーションコンクールに向けた準備 ・ 情報収集の仕方について ・ JSC フェスティバルに向けた発表準備 ・ 作文指導 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ パナソニックプレゼンテーションコンクールに向けた準備、校内選考 ・ JSC フェスティバルに向けた準備、発表練習 ・ 日本の学校や他国の日本人学校との交流会の計画、実施、ふり回り 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校内研究授業 (第 2～5 回) ・ デジタルシンキングツールの活用 ・ 調べ学習、発表活動等 	
	スライド発表：JSC フェスティバル			
	児童生徒への発表に関する意識調査第 2 回 (Google Forms) を実施。(12 月)			
スライド発表：2 学期の振り返り (終業式)				
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・ プログラミング体験 ・ 作文指導 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ プログラミング学習 (Scratch) ・ 1 年間のまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ デジタルシンキングツールの活用 ・ 調べ学習、発表活動等 	
	スライド発表：3 学期の振り返り (修了式)			
児童生徒への発表に関する意識調査第 3 回 (Google Forms) を実施。(3 月)				

4. 代表的な実践

4.1.Grow Up Time

6月にロイロノート・スクール活用研修会を実施した。今年度より試験的に導入したロイロノート・スクールの基本的な操作から、各教科や特別活動での活用等、全校児童生徒そして教員も一緒になって学んだ。デジタルシンキングツール等も使用しながら思考をまとめる力もついてきた。(図 1) また、共有ノートや提出箱等で他の児童生徒の思考を共有している。

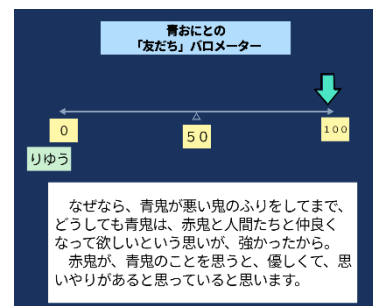


図 1

4.2.総合的な学習の時間の充実

本校では、他校との交流会を中心に進めてきた。今年度は、スリランカの現地校 1 校と対面交流、日本の高等学校や中学校 3 校、海外の日本人学校 1 校とオンライン交流を行った。

現地校との交流会では「日本の魅力を伝えよう」というテーマでプレゼンテーションを作成した。3 つのグループに分かれ、日本の魅力について話し合い、①日本の四季と年中行事について②日本の観光名所について③和食文化について紹介した。(写真 1)



写真 1

日本の学校や海外の日本人学校との交流会では「スリランカの魅力を伝えよう」というテーマで、プレゼンテーションを作成した。3 つのグループに分かれ、スリランカの魅力について話し合い、①コロンボ日本人学校について②スリランカの観光について③スリランカの食べ物について紹介した。事前に相手校にアンケートを行い、スリランカについて知りたいと思っていることを確かめ、プレゼンテーションづくりの参考にした。また現地校との交流会の反省から、日本の学校との交流会では発表原稿の作成に重きを置いた。グループで話し合い、伝えたいことを整理した上で発表原稿を作成することで、より伝えたい内容が明確になるようにした。

(図 2) さらに、交流会の相手によってスライドの内容を工夫する姿が見られ、相手意識をもって取り組んでいた。

交流会後のアンケート結果から、自分たちが伝えたかった内容がしっかりと相手にも伝わったことがわかった。またこれを児童生徒とも共有することで、相手に伝わったことを実感させることができた。

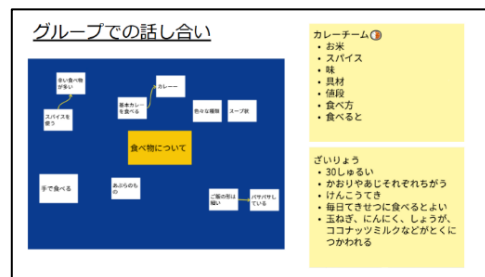


図 2

4.3.各教科での実践

4.3.1.小学部 5 年 国語科 「たがいの立場を明確にして、話し合おう よりよい学校生活のために」

児童が学校生活を振り返り、新たに取り組みたいことや課題を整理し、議題を決定する活動を行った。本時では、児童の意見を階層的に整理することで思考を深め、重要な意見を抽出しやすくするために「ピラミッドチャート」を使用した。(図 3) 児童は「ピラミッドチャート」を活用する中で、思考を可視化して共有するだけでなく、意見の分類や優先順位付けを行うことができた。



図 3

今回の授業を通じて、ICT の活用が児童の思考を可視化し、話し合いを進める手立てとして非常に効果的であることが分かった。またシンキングツールを目的に応じて適切に選

扱し、活用することで、児童の主体性を引き出すための有効な手段となることを実感した。

4.3.2. 中学部1年 音楽科 「イメージをもたらす音楽の秘密を探ろう」

本時では、「イメージをもたらす音楽の秘密を探る」ことをねらいとした。生徒たちは、シンキングツールを使って音楽を形づくる要素を整理し、それをもとにプレゼンテーションを行った。

教材として取り上げたのは、映画音楽「ジョーズのテーマ」である。この音楽が生み出す「何かが迫ってくる感じ」について、音楽を形づくる要素の具体的な理由や、その変化を明らかにするために「クラゲチャート」を活用した。(図4)

生徒たちは、それぞれの要素に注目して耳を傾けることで、多くの特徴を捉えることができた。その内容をロイロノート・スクールに記録した。

また、本時では、1人1台端末を活用し、プレゼンテーションを行うことで鑑賞領域における表現力の向上を図った。生徒たちは、自分が聴き取った中で特に重要だと感じた特徴をもとにプレゼンテーションを作成し、互いに発表した。この活動を通じて、生徒たちは音楽の良さを味わいながら聴くことの大切さを学ぶことができた。また表現力の向上にもつながることができた。



図4

4.4. 発表する場の設定

本研究では、児童生徒の発表活動を通じて表現力の育成を図るため、定期的に発表の場を設けた。例えば、Keynote を使用した学期ごとのふり返し発表では、児童生徒が学期中の成果をスライドにまとめ、自分の成長をわかりやすく伝える活動を行った。この取り組みを通じて、児童生徒は効果的な伝え方や表現方法を学び、スライド作成の技術向上とともに、自身の考えを的確に伝える力を養っている。

また、校内選考会を経て代表者を選出し、毎年パナソニック教育財団のプレゼンテーションコンクールに参加している。このコンクールに向けて作成したプレゼンテーションは、校内文化祭 JSC フェスティバルでも披露した。

これらの取組から児童生徒は聞き手を意識した伝え方を身につけ、表現力を高めている。また発表準備では互いに意見を出し合い、内容をより良いものにする中で、考えを整理し適切に伝える力を身に付けることができた。

5. 研究の成果

5.1. 発表への抵抗感の減少と表現力の向上

児童生徒の変容を見取るために、学期に1回「発表についてのアンケート」を行い、児童生徒の発表に対する意識調査を行った。アンケート結果の中から児童の変容を見取ることができた項目について言及する。

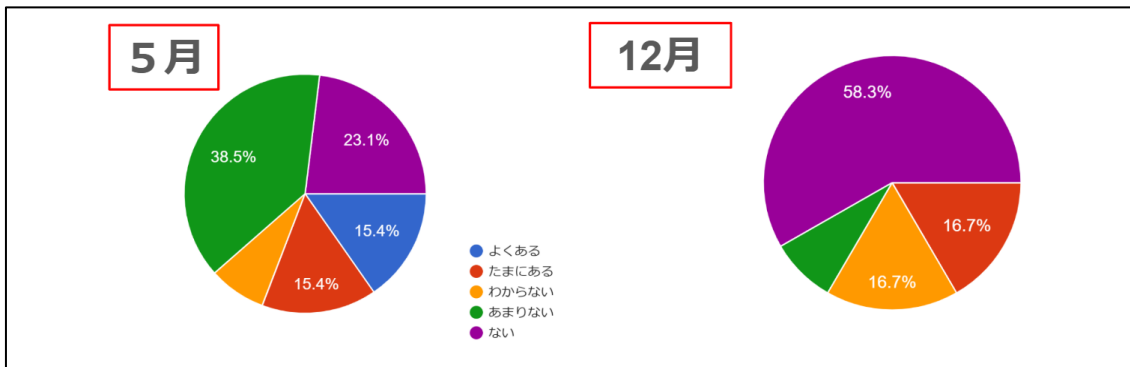
【対象】在籍児童生徒 (5月13名、12月12名)

【実施日】令和6年5月15日、12月20日

【調査方法】・原則として同じ質問項目とする

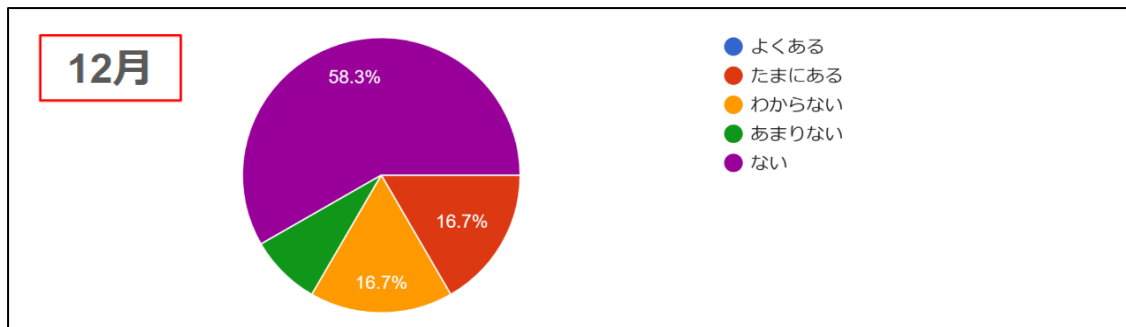
・Google Formsにて各自iPadで回答

「みんなの前で発表するときに、緊張して言いたいことが言えなかったことはありますか。」という問いに対して、5月と12月の変化を比べると、「よくある」という回答がなくなり、「ない」という回答が増えたことがわかる。(グラフ1)



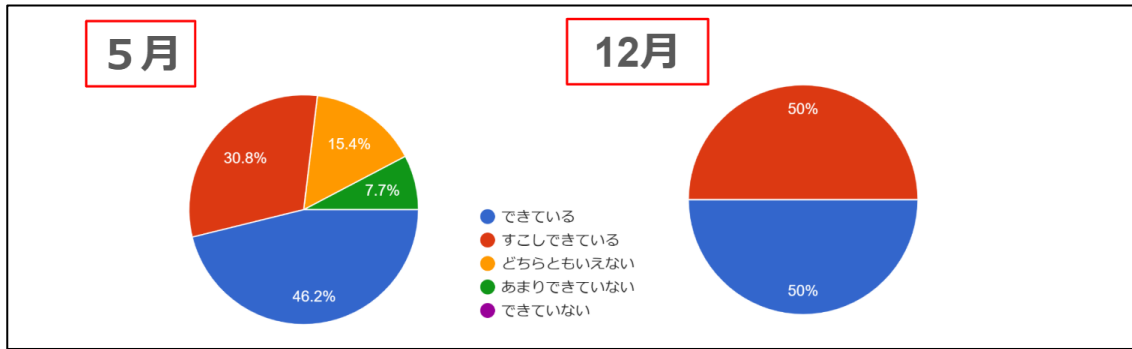
グラフ1

また12月のアンケートでは「みんなの前で発表するときに、前より緊張しなくなりましたか。」という問いに対して、全員が「しなくなった」「すこししなくなった」と回答した。発表経験を通して、緊張に対する意識の変化が見られた。(グラフ2)



グラフ2

「みんなの前で発表するときに自分の伝えたいことを相手に伝えることができているか。」という問いでは、オレンジ色の「どちらともいえない」と緑色の「あまりできていない」という回答がなくなり、全員が「できている」と実感できたことがわかる。発表の場を通して、自分の思いが相手に「伝わった」と思える経験ができたことは大きな成果といえる。(グラフ3)



グラフ 3

5.2.相手意識の向上

発表相手に応じて、スライドの内容を工夫する姿が見られるようになった。相手意識を持って発表内容を工夫した結果、交流相手から以下のようなコメントが寄せられた。

～アンケート結果の抜粋～

- ・「スリランカについてよく知ることができたので、私もスリランカに行ってみたいと思いました。」
- ・「最初はあまりスリランカについて考えたことがなかったけれど、今回の交流を通じて、スリランカカレーには色々なスパイスが使われていることを知りましたし、観光地のシーギリアロックという歴史的な場所についても知り、いつかスリランカに行ってみたいと思いました。」
- ・「スリランカのコロンボという地域は知っていましたが、何も詳しくは知りませんでした。しかし、この交流を通してスリランカやコロンボについて知ることができ、もっと知りたいと思いました。」
- ・「スリランカのことをあまり知らない私たちにも分かりやすく工夫して発表してくれて、ありがとうございました！とても楽しくスリランカについて知ることができました！」

このようなコメントが多く寄せられたのは、「相手がどのようなことを知りたいと思っているのか」という視点に立ち、発表内容を考えることができた結果だと考えられる。

5.3. 論理的思考力の改善

児童生徒の問題解決や考えを整理する能力が向上した。論理的な思考が身につくことで、学習内容をより深く理解し、自己表現の際にも整った意見を述べるようになった。

例えば、物語の登場人物の特徴を捉える学習で、1学期は教師主導でウェビングマップを使用し、登場人物ごとに特徴をまとめた。(図 5)しかし、デジタルシンキングツールを使用した活動を繰り返すことで、2学期には児童が主体的に「ベン図」を活用し、登場人物の共通点と相違点に着目し、特徴をまとめることができた。(図 6)

8. 参考文献

- パナソニック教育財団(2016) 北本市立北小学校「ICTを有効活用し言語活動の活性化を図る体育授業の実践 ～タブレット・PCの活用により、思考力・判断力・表現力の効果的な育成を目指して～」報告書
https://www.pef.or.jp/db/pdf/2016/2016_14.pdf
- パナソニック教育財団(2019) 名張市立桔梗が丘小学校「主体的・対話的な学びを通じた思考力・表現力を育成する授業の創造 ～タブレット端末を活用した、「話したい」「話し合いたい」「伝えたい」と高めあう児童の育成～」報告書
https://www.pef.or.jp/db/pdf/2019/2019_19.pdf